

「ナ形容詞」と「ノ形容詞」のイメージ

——日本語母語話者の使用意識——

羅 蓮 萍

1、はじめに

三尾 (1942) は、形容詞、形容動詞、連体詞など、主に連体修飾語として用いられるものを広義の形容詞とし、これを基本形の語尾によって「い」形容詞 (赤い、美しい)、「な」形容詞 (静かな、進歩的な、こんな)、「の」形容詞 (本当の、当然の、この)、連体詞 (いわゆる、堂々たる、きちんとした) というような形態による分類を提示している。

意味機能から、「こんな」「この」は連体詞であり、形容詞として認められにくい。これらは別として、三尾 (1942) に「ノ形容詞」とされている「本当」「当然」などは、日本語教育では、属性を表す副詞または名詞として扱われている。しかし、「本当」「当然」などの語は、意味的にも、他の語との接続の関係においても (連体修飾の場合以外)、「ナ形容詞」とはあまり差がない。日本語学習者がこれらの語に出会った時、連体修飾以外の場合では、副詞であるか「ナ形容詞」であるか、判断しにくいと思われる。日本語教育の面からも、連体修飾の際「の」を取る語群を整理する必要があると思われる。

そこで、羅 (2004) は、『ふりがな和英辞典』(2001、講談社) から、「～な」と例示されている二字漢語25語と「～の」と例示されている二字漢語25語の連体文節を対象に、日本語母語話者がどのように「の」あるいは「な」を選択しているかについて調査した。その結果、辞典に「～な」と提示された25語の内、「の」の非選択は14語見られた。「の：な」が1：10以下の比率で選択されたのは10語であった。「急速」1語のみ、「の：な」の選択が1.3:10の比率であった。「～の」と提示された25語の内、「な」の非選択は見られなかった。「な：の」が1：10以下の比率で選択されたのは8語で、「な：の」が1:10以上2:10以下の比率で選択されたのは3語で、「な：の」が2：10以上10：10以下の比率で選択されたのは11語であった。「な：の」が10：10以上の比率で選択されたもの、すなわち辞典では「～の」と提示されているが、「な」の選択が多かったものは、「最悪・独特・適度」の3語であった。特に「適度」の「な：の」の選択は95:21で、「な」がはるかに多く選択された。連体修飾の際に、「な」「の」の両方をとる語が相当数存在すること、日本語母語話者は使用者により場合により「ノ形容詞」に「の」ではなく「な」を付けて使用する傾向が窺える。

羅 (2005) では、同じ50語を対象に、中国人学習者がどのように「の」あるいは「な」を選択しているかについて調査した。日本語母語話者の結果と対照しながら、中国人学習者の選択傾向を通して、日本語教育における「ノ形容詞」の扱いの問題点を明らかにし、日本語教育における「ノ形容詞」の扱いについて提案した。

本稿では、羅 (2004、2005) の「～な」の二字漢語25語と「～の」の二字漢語25語に対する

日本語母語話者のイメージについて、また、辞書に「～の」と提示し、実態調査では「な」「の」に近い率で或いは「な」の方が多く選択された「不意・抜群・最悪・独特・適度」の5語を文レベルで、日本語母語話者の使用傾向と使用意識について、調査を行い、外国人学習者の「ナ形容詞」と「ノ形容詞」、特に「ノ形容詞」の学習の一助にしたい。

2、調査方法

「ナ形容詞」と「ノ形容詞」のイメージ調査は、プラス・マイナス・ニュートラルの3項目を設定して、2003年6月に行った（別添資料1参照）。

「不意・抜群・最悪・独特・適度」の文レベルでの使用傾向と使用意識に関する調査は、2008年4～8月に行った。朝日新聞のデータベースから「不意な」「不意の」「抜群な」「抜群の」「最悪な」「最悪の」「独特な」「独特の」「適度な」「適度の」を含む文それぞれ1文、合計10文をピックアップし、「な」か「の」の選択及び選択理由について調査した（別添資料2参照）。

3、調査結果と考察

3-1 回答者の構成

3-1-1 イメージ調査の回答者

イメージ調査では日本語母語話者169人（男性27人、女性136人、無記入6人）のアンケートを回収した。女性の方が圧倒的に多かった。その内、学生が105人、社会人が32人（社会人23、退職9）、無職が28人（主婦22、無職6）、無記入が4人であった。

イメージ調査の年代別構成は以下の通りである。（ ）内は人数。

10代 (52) 20代 (60) 30代 (16) 40代 (14) 50代 (25) 無記入 (2)

イメージ調査の出身地別構成は以下の<表1>の通りで、西日本の出身者が中心であった。

<表1> イメージ調査の出身地別構成

山口	福岡	神奈川県	東京都	大分	広島	兵庫,岡山,長崎,埼玉	宮崎,佐賀,山梨,静岡,長野,北海道	大阪,三重,石川,千葉,茨城,鹿児島,和歌山	無記入
54	45	10	9	8	6	各3	各2	各1	5

3-1-2 文レベルでの使用傾向と意識調査の結果と分析

文レベルの使用傾向と意識調査では日本語母語話者184人（男性63人、女性121人）のアンケートを回収した。男性より女性の方が倍近く多かった。

使用傾向と意識調査の年代別構成は以下の通りである。（ ）内は人数。

10代 (25) 20代 (44) 30代 (27) 40代 (35) 60代 (14) 無記入 (6)

使用傾向と意識調査の出身地別構成は次の<表2>の通りで、西日本の出身者が多かった。

<表2> 使用意識調査の出身地別構成

山口	島根	広島	大分	福岡	長崎	佐賀	高知	大阪、石川	兵庫、鹿児島、熊本、埼玉	香川、宮崎、三重、福井、静岡、東京、富山、山形、愛知、沖縄、神奈川
46	26	24	20	14	10	9	8	各4	各2	各1

3-2 回答の結果と分析

3-2-1 イメージ調査の結果と分析

イメージ調査の結果は次の<表3>に示したとおりである。辞典に「～な」と提示された語は「～な」の列に、辞典に「～の」と提示された語は「～の」の列に示している。表中にプラスを「+」、マイナスを「-」、ニュートラルを「0」、「どちらかわからない」を「?」とそれぞれ記号で示す（優位を占めているイメージはゴシック体で示している）。

<表3> 語彙のイメージ (n=169)

～な	+	-	0	?	～の	+	-	0	?
快適	165	1	3	0	最高	158	2	8	1
活発	162	1	5	1	抜群	158	3	8	0
貴重	162	0	5	2	絶好	156	3	9	1
偉大	161	2	5	1	一流	149	1	15	4
優秀	161	1	7	0	唯一	119	4	39	7
誠実	160	2	7	0	永遠	114	3	38	14
優雅	160	1	7	1	適度	114	10	42	3
有望	158	2	9	0	独自	105	3	50	11
豪華	155	4	9	1	天然	103	7	48	11
純粹	153	4	10	2	独特	100	8	50	10
盛大	153	1	9	6	特有	100	8	50	11
軽快	152	5	9	3	無限	94	9	49	17
有力	147	6	14	2	最悪	2	160	5	2
適切	141	2	21	5	不意	2	114	45	11
率直	111	6	39	13	必死	45	55	50	19
精密	96	8	50	14	一般	10	12	138	9
意外	79	16	59	15	同様	21	5	124	19
退屈	5	146	15	3	共通	34	5	122	8
深刻	8	133	23	5	公然	21	23	100	25
曖昧	7	129	27	3	必然	37	14	98	20
奇妙	8	110	36	15	臨時	9	37	98	27
極端	17	83	50	19	突然	16	37	90	16
嚴重	35	75	46	13	別々	8	54	90	17
急速	60	14	73	22	至急	13	60	77	19
重大	51	42	55	21	匿名	5	66	70	28
計	2667	794	593	167	計	1693	703	1513	310

＜表3＞に示したように、辞典に「～な」と提示された25語において、「快適」から「意外」までの17語はプラスイメージ、「退屈」から「嚴重」までの6語はマイナスイメージ、「急速」「重大」の2語はニュートラルのイメージが強いことがわかる。合計した数を通して全体を見ると、辞典に「～な」と提示された25語はプラスのイメージが強く、続いてはマイナスのイメージで、ニュートラルのイメージが最も少ない。プラスやマイナスのイメージを抱く人はニュートラルのイメージを抱く人の約6倍になっている。

辞典に「～の」と提示された25語において、「最高」から「無限」までの12語はプラスイメージ、「最悪」「不意」「必死」の3語はマイナスイメージ、「一般」から「匿名」までの10語はニュートラルのイメージが強いという結果となった。このように、辞典に「～の」と提示された25語は、「～な」と提示された語と比較して言えば、ニュートラルのイメージが強い語の存在が特徴的である。合計した数を通して全体を見ると、辞典に「～の」と提示された25語はプラス及びニュートラルのイメージが強く、マイナスのイメージが最も少ない。プラスやマイナスのイメージを抱く人はニュートラルのイメージを抱く人の2倍にも達していない。

辞典に「～な」と提示された語と辞典に「～の」と提示された語の全体のイメージ(合計した数)に対して、Excelにおいて、2(な:の)×3(プラス:マイナス:ニュートラル)の χ^2 検定の結果、「～な」語群と「～の」語群のイメージの偏りは有意である(p<0.001)。

2(な:の)×2(プラスとマイナス:ニュートラル)の χ^2 検定の結果も、「～な」語群と「～の」語群のイメージの偏りは有意であり(p<0.001)、「～な」語群はプラスやマイナスのイメージが強く、「～の」語群はニュートラルのイメージが強いことが見られる。

羅(2005)は連体文節における母語話者の「な」か「の」の選択結果に基づき、「両方」を選択した数を付け加えた上、「な」の選択が90%以上の語を「ナ形容詞」、「の」の選択が90%以上の語を「ノ形容詞」、両者の間にある語を「ナノ形容詞」として扱うことを提案した。結果として、辞典に「～な」と提示した25語は、「急速」を除いて全て「ナ形容詞」として扱い、「～の」と提示した25語は、「適度」を「ナ形容詞」、「最悪」「独特」などの16語を「ナノ形容詞」、残りの8語を「ノ形容詞」として扱うことにした。

これらの語及びそのイメージは以下の＜表4＞示したとおりである。

＜表4＞ 「ナ形容詞」「ナノ形容詞」「ノ形容詞」のイメージ

	語彙	+	-	0
ナ形容詞	曖昧、意外、偉大、快適、活発、貴重、奇妙、極端、軽快、嚴重、豪華、重大、純粹、深刻、誠実、盛大、精密、率直、退屈、適切、優雅、優秀、有望、有力、適度(25語)	2721	790	562
ナノ形容詞	急速、最悪、独特、特有、抜群、必死、不意、同様、必然、公然、無限、別々、独自、最高、共通、至急、突然(17語)	974	574	1089
ノ形容詞	一流、一般、永遠、絶好、天然、匿名、唯一、臨時(8語)	665	133	455

「ナ形容詞」「ナノ形容詞」「ノ形容詞」の全体のイメージに対して、Excelにおいて、3（ナ形容詞：ナノ形容詞：ノ形容詞）×3（プラス：マイナス：ニュートラル）の χ^2 検定の結果、「ナ形容詞」「ナノ形容詞」「ノ形容詞」のイメージの偏りは有意である（ $p < 0.001$ ）。「ナ形容詞」「ナノ形容詞」「ノ形容詞」をそれぞれ詳細に比較してみると、2（ナ形容詞：ナノ形容詞）×2（プラス+マイナス：ニュートラル）の χ^2 検定の結果、「ナ形容詞」と「ナノ形容詞」のイメージの偏りは有意であり（ $p < 0.001$ ）、「ナ形容詞」はプラスやマイナスのイメージが強く、「ナノ形容詞」はニュートラルのイメージが強い。2（ナ形容詞：ノ形容詞）×2（プラス+マイナス：ニュートラル）の χ^2 検定の結果、「ナ形容詞」と「ノ形容詞」のイメージの偏りは有意であり（ $p < 0.001$ ）、「ナ形容詞」はプラスやマイナスのイメージが強く、「ノ形容詞」はニュートラルのイメージが強い。ただし、2（ノ形容詞：ナノ形容詞）×2（プラス+マイナス：ニュートラル）の χ^2 検定の結果では、「ノ形容詞」と「ナノ形容詞」のイメージの偏りは有意であるが（ $p < 0.005$ ）、「ノ形容詞」はプラスのイメージがやや強く、「ナノ形容詞」はニュートラルのイメージがやや強い。これは、「ナノ形容詞」は実のところ、「急速」以外の16語はすべて辞典に「～の」と提示され、連体文節における選択も「の」の方が多く選択されているため、「ナノ形容詞」と「ノ形容詞」のイメージの違いは区別しにくいのではないかと考えられる。

3-2-2 文レベルでの使用傾向と意識調査の結果と分析

文レベルでの使用傾向と使用意識調査の結果は、以下の<表5>に示したとおりである。

<表5> 文レベルの「な」と「の」の使用傾向と使用意識（ $n = 184$ 、但し欠損した場合がある）

	な/の選択	柔かい	固い	p	情意的	客観的	p	何となく	
不意	な	171	20	9	0.00276 **	19	42	0.19372	81
	の	192	13	27		21	75		75
抜群	な	142	23	9	0.00006 ***	30	30	0.16488	50
	の	224	12	34		40	63		75
適度	な	323	111	8	1.15518E-06 (1.15518×10 ⁻⁰⁶)***	29	56	0.60333	119
	の	41	2	4		5	13		17
最悪	な	142	11	21	0.01966*	19	38	0.01311	53
	の	225	8	51		14	75		*
独特	な	221	47	10	0.10621	39	36	0.04824	89
	の	144	18	9		21	39		*
計	な	999	212	57	5.17109E-25 (5.17109×10 ⁻²⁵)***	136	202	0.00039	392
	の	826	53	125		101	265		***

* $p < 0.05$ 、** $p < 0.01$ 、*** $p < 0.001$

男女間、年代間の「な／の」の選択及び選択意識について、SPSS for Windowsによる χ^2 検定の結果、いずれも有意な偏りが見られなかった。よって、以下は全回答を合計して分析した。SPSSとは(Statistical Package for Social Scienceの略で、社会調査データを分析するためにもっともよく利用されてきたソフトウェアである。

上に検証してきたように、「～な」語群はプラスやマイナスのイメージが強く、「～の」語群はニュートラルのイメージが強い。プラスやマイナスのイメージが強いことは情意性に富み、柔かい語感であり、ニュートラルのイメージが強いことは客観性に富み、固い語感を持つことを仮説として設定したい。連体文節で「な」「の」共に多く選択されていた「不意」「抜群」なども、「柔らかい」語感や「情意的」イメージである場合は「な」を選び、「固い」語感や「客観的」イメージである場合は「の」を選ぶと考えられる。この仮説に基づいて【別添資料2】のアンケートを作成しており、2(な:の)×2(柔らかい:固い)、2(な:の)×2(情意的:客観的)のそれぞれに対して χ^2 検定を行ない、有意な偏りが見られたP値は<表5>においてゴシック体で示した。

詳細に見ると、以下のことが見てとれる。

- ①「不意」において、「の」のほうがやや多く選択されている。選択理由については、「柔らかい: 固い」の偏りは有意であり($p < 0.01$)、「な」を選択する場合は、「柔らかい」語感の意識が強く、「の」を選択する場合は、「固い」語感の意識が強いと見られる。「情意的: 客観的」の有意な偏りは認められなかった。
- ②「抜群」において、「の」のほうが多く選択されている。「柔らかい: 固い」の偏りは有意であり($p < 0.001$)、「な」を選択する場合は、「柔らかい」語感の意識が強く、「の」を選択する場合は、「固い」語感の意識が強いと見られる。「情意的: 客観的」の有意な偏りは認められなかった。
- ③「適度」において、「な」のほうが圧倒的に多く選択されている。選択理由については、「柔らかい: 固い」の偏りは有意であり($p < 0.001$)、「な」を選択する場合、「柔らかい」語感の意識が強いと見られる。「情意的: 客観的」の有意な偏りは認められなかった。
- ④「最悪」において、「の」のほうが多く選択されている。選択理由については、「柔らかい: 固い」の偏りは有意であり($p < 0.05$)、「の」を選択する場合、「固い」語感の意識が強いと見られる。「情意的: 客観的」の偏りも有意であり($p < 0.05$)、「の」を選択する場合、「客観的」なイメージが強いと見られる。
- ⑤「独特」において、「な」のほうが多く選択されている。選択理由については、「柔らかい: 固い」の有意な偏りは認められなかった。「情意的: 客観的」の偏りは有意であり($p < 0.05$)、「の」を選択する場合、「客観的」なイメージが強いと見られる。
- ⑥全体的にみると、「な」「の」の選択においては、羅(2004)では、「不意(な／の)出来事」「抜群(な／の)才能」「最悪(な／の)事態」「独特(な／の)発想」「適度(な／の)運動」という連体文節における「な」「の」選択率は、「な:の」それぞれ58:62 [20]、58:65 [23]、70:69 [39]、77:55 [32]、95:21 [16]である([]内は「な」「の」の同時選択である)。本調査の文脈での「な」「の」の選択では、「抜群・最悪」は連体文節より「の」の方が多く選択されている。それは朝日新聞のデータベースを利用したことが関係していると思われる。

「不意・独特・適度」は連体文節における選択に類似した選択傾向が見られる。このように、「な」か「の」の選択は後接する名詞に影響されるものの、一定の選択傾向も見られる。

選択理由については、「不意・抜群・適度」は「な」を選択する場合は、「柔らかない」語感の意識が強く、「の」を選択する場合は、「固い」語感の意識が強く、語感で選択していることが見られる。「最悪」は「の」を選択する場合、「固い」語感、「客観的」なイメージが強く、語感やイメージで選択していることが見られる。「独特」は「の」を選択する場合、「客観的」なイメージが強く、イメージで選択していることが見られる。このように、語によって語感で使い分けしたり、イメージで使い分けたりすることが見られる。また、「柔らかない」や「固い」語感で使い分けする語が多く見られるが、「情意的」や「客観的」イメージで使い分けする語が少ない。これは自由記述に反映されたように、「情意的」という表現が日常であまり使われていないため、今回の回答者とした一般の人には理解しにくかったのではないかと考えられる。

分析対象とした5語を含む文に関して合計した数を通して全体を見ると、「な」を選択する場合には、「柔らかない」語感や「情意的」イメージが強く、「の」を選択する場合には、「固い」語感或いは「客観的」なイメージが強い傾向が見られ ($p < 0.001$)、仮説はほぼ検証できたと考えられる。以下に示す自由記述にも、それを裏付けるコメントが多く見られた。

- ・「な」は修飾という感が強い。
- ・「な」のほうがかくだけた印象を受ける。
- ・「な」は柔らかく、「の」は固い印象を与える、「な」は客観的、情意的に訴えるのに対し、「の」は断定的である。
- ・「な」を使うと、前の言葉は形容動詞になり、後ろの名詞を修飾するため、柔らかない感じがします。逆に「の」を使うと、「名詞+名詞」になり、少し固い一つの言葉のように感じます。
- ・「な」は強める時に使う気がする。「の」は文と文の繋ぎの感じ。
- ・「な」のほうの主観的なイメージで「の」のほうが客観的なイメージ。
- ・「な」を使用することにより共感を呼ぶように響く。「の」を使用することにより語気を強めるように思う。
- ・個人的に考えている、自分の意識が込められる場合、「な」を使うことが多い。
- ・「の」を使った場合、名詞の後に使うため、少し冷たい気がする。「な」の方が後の名詞を直接に修飾しているような気がするので、少し暖かい感じがする。

⑦いずれの文も「な」「の」の選択理由に「何となく」が多く挙げられている。自由記述にも、「使い分けは感覚的な部分が多く、論理的に上手く説明できないと感じました」というような意見が多く見られた。母語話者でも明確な意識で「な」か「の」を使用しておらず、感覚的に無意識に使い分けを行っていると考えられる。その感覚としては、明確な意識ではないが、検証された仮説に示したように、文脈や語感、イメージなどに左右されていると思われる。

4、まとめと考察

以上の結果から見られるように、辞典に「～な」と提示された「ナ形容詞」はプラスやマイナスのイメージが強いのに対し、辞典に「～の」と提示された「ノ形容詞」はニュートラルのイメージが強いことが見られる。羅（2005）の連体文節における母語話者の「な」か「の」の選択に基づいた「ナ形容詞」「ノ形容詞」の分類にも、「ナ形容詞」はプラスやマイナスのイメージが強く、「ノ形容詞」はニュートラルのイメージが強いことが明らかとなった。

プラスやマイナスのイメージが強いことは情意性に富み、柔かい語感であり、ニュートラルのイメージが強いことは中立的で、客観性に富み、固い語感を持つことでもある。それと同様に、「な」「の」共に多くとる「不意・抜群・適度・最悪・独特」も、語によって語感で使い分けしたり、イメージで使い分けたりすることが見られ、「柔らかい」語感或いは「情意的」イメージである場合は「な」を選び、「固い」語感或いは「客観的」イメージである場合は「の」を選ぶ傾向が見られる。「の」を使用する場合は、事実をニュートラルで述べているのに対し、「な」を使用する場合は、その事実に対する強調や好悪の話者の心情も表わしている。「な」も「の」もとる「ノ形容詞」は、文章が改まった文章であればあるほど、「の」を多くとり、会話や情意性を富む文章においては「な」を多くとると考えられる。

一方、母語話者は「ノ形容詞」にも「な」を選択することが多く、両者間の境界線は明確ではない。「な」も「の」も多くとる語に対して、文章中において「な」と「の」をどのように使用するかは「何となく」という感覚に任せることが多い。

三尾（2003:118）は、「な」も「の」も取る形容詞が多く存在することに言及し、それは「ノ形容詞」から「ナ形容詞」への転籍の傾向が一般的なものと考え、「の」「な」の両方の語尾を持っているものは、「ナ形容詞」への転向過程にあるものという考えを示している。このことは堅き文語から話し言葉的な現代文へ変遷する角度から、「の」は書き言葉的で、「な」は話し言葉的なニュアンスがあり、「ノ形容詞」から「ナ形容詞」への転籍の傾向は、書き言葉が話し言葉に発展する傾向でもあろう。

羅（2002）によると、非「的」ナ形容詞（静か、簡潔など）の5～6割、「的」付きナ形容詞（社会的、客観的など）の約9割が二字漢語である。このことから、今回の調査に取り上げた25語も、ある程度代表性があると言えるであろう。但し、これらの語以外に、日本語においては、「別・ぼろ・色々・屈強・肝心・好適・上等・対等・健康」など、連体修飾の場合「な」も「の」も取る語群が多く存在している。また、今回の文レベルの使用傾向と意識調査は連体文節で「な」「の」共に多く選択されている5語に限っており、両調査の回答者も女性に偏っている。今後更なる調査を追加して検証することが課題となる。

羅（2005）の調査では、学習者が「な」も「の」も取る語群の存在に対する認識の不足、「な」と「の」の使い分けができていないことを明らかにしており、今回の結果が学習者への指導上の一助になることを期待する。

【参考文献】

三尾 砂 (1942) 『話言葉の文法』 帝国教育会

三尾 砂 (2003) 『三尾砂著作集Ⅱ』 ひつじ書房

吉田正俊・中村義勝編集 (2001) 『ふりがな和英辞典』 講談社インターナショナル株式会社

羅 蓮萍 (2002) 「非『的』ナ形容詞と『的』付きナ形容詞の日本語教科書での扱いに関する調査研究」 中国四国教育学会発行『教育学研究紀要』 第48巻

羅 蓮萍 (2004) 「日本語教育における『ノ形容詞』の扱いについて」 山口大学人文学部国語国文学会発行『山口国文』 第27号

羅 蓮萍 (2005) 「『ナ形容詞』と『ノ形容詞』—中国人学習者の選択傾向—」 山口大学国語国文学会発行『山口国文』 第28号

(ラ・レンピン)

【別紙資料1】

ア ン ケ ー ト

語のイメージについてお尋ねします。

- {

 + : プラスのイメージ

 - : マイナスのイメージ

 0 : 中立的 (ニュートラル) なイメージ

 ? : プラス・マイナスどちらとも言えない或はどちらかわからない

例のように+/-/0/?のいずれかに○をつけてください。

例： 簡単 (+ / - / 0 / ?)

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1、曖昧 (+ / - / 0 / ?) | 30、適切 (+ / - / 0 / ?) |
| 2、意外 (+ / - / 0 / ?) | 31、適度 (+ / - / 0 / ?) |
| 3、偉大 (+ / - / 0 / ?) | 32、天然 (+ / - / 0 / ?) |
| 4、一流 (+ / - / 0 / ?) | 33、同様 (+ / - / 0 / ?) |
| 5、一般 (+ / - / 0 / ?) | 34、独自 (+ / - / 0 / ?) |
| 6、永遠 (+ / - / 0 / ?) | 35、独特 (+ / - / 0 / ?) |
| 7、快適 (+ / - / 0 / ?) | 36、匿名 (+ / - / 0 / ?) |
| 8、活発 (+ / - / 0 / ?) | 37、特有 (+ / - / 0 / ?) |
| 9、貴重 (+ / - / 0 / ?) | 38、突然 (+ / - / 0 / ?) |
| 10、奇妙 (+ / - / 0 / ?) | 39、抜群 (+ / - / 0 / ?) |
| 11、急速 (+ / - / 0 / ?) | 40、必死 (+ / - / 0 / ?) |
| 12、共通 (+ / - / 0 / ?) | 41、必然 (+ / - / 0 / ?) |
| 13、極端 (+ / - / 0 / ?) | 42、不意 (+ / - / 0 / ?) |
| 14、軽快 (+ / - / 0 / ?) | 43、別々 (+ / - / 0 / ?) |
| 15、嚴重 (+ / - / 0 / ?) | 44、無限 (+ / - / 0 / ?) |
| 16、豪華 (+ / - / 0 / ?) | 45、唯一 (+ / - / 0 / ?) |
| 17、公然 (+ / - / 0 / ?) | 46、優雅 (+ / - / 0 / ?) |
| 18、最悪 (+ / - / 0 / ?) | 47、優秀 (+ / - / 0 / ?) |
| 19、最高 (+ / - / 0 / ?) | 48、有望 (+ / - / 0 / ?) |
| 20、至急 (+ / - / 0 / ?) | 49、有力 (+ / - / 0 / ?) |
| 21、重大 (+ / - / 0 / ?) | 50、臨時 (+ / - / 0 / ?) |
| 22、純粹 (+ / - / 0 / ?) | |
| 23、深刻 (+ / - / 0 / ?) | |
| 24、誠実 (+ / - / 0 / ?) | |
| 25、盛大 (+ / - / 0 / ?) | |
| 26、精密 (+ / - / 0 / ?) | |
| 27、絶好 (+ / - / 0 / ?) | |
| 28、率直 (+ / - / 0 / ?) | |
| 29、退屈 (+ / - / 0 / ?) | |

出身：_____ (都・道・府・県)

職業：社会人・学生・主婦・無職・退職

性別：男・女

年齢：10代・20代・30代・40代・50代以上

(いずれかに○をつけてください)

ご協力ありがとうございました。

羅蓮萍

【別紙資料2】

アンケート調査のお願い

山口大学東アジア研究科コラボ研究員 羅蓮萍

外国人学習者のために、日本語母語話者の使用意識について調査しています。

括弧内の「な」か「の」のいずれかを選択し、その選択した理由や感覚を教えてください（複数回答可）

A：柔らかい B：固い C：客観的 D：情意的 E：何となく

1、ホバリング（空中停止）しようとしたヘリが、急激な気流の変化の影響を受けて不意【な／の】沈下に陥り、機体を回復できないまま墜落したとしている。

選択理由： A ・ B ・ C ・ D ・ E

2、生活費は13万円以内に抑え、残りは不意【な／の】出費に充てる。

選択理由： A ・ B ・ C ・ D ・ E

3、息子と娘の作曲と演奏に支えられ、抜群【な／の】表現力で丁寧なモダンフォークを仕上げた。

選択理由： A ・ B ・ C ・ D ・ E

4、福岡六大学で通算25勝、今季防御率0・58のエース馬原を筆頭に投手陣が抜群【な／の】安定感を誇る。

選択理由： A ・ B ・ C ・ D ・ E

5、出来たては「ばりばり」としているが、食べる時にはクリームの水分会を吸って適度【な／の】食感だ。

選択理由： A ・ B ・ C ・ D ・ E

6、刺し身は適度【な／の】脂肪があり、白身の魚と違つかみしめると味が濃い。

選択理由： A ・ B ・ C ・ D ・ E

7、うつ病の人は励ましてはいけないという。「励まされても元気になれない、期待に応えられない自分がいる」と自分を責め、最悪【な／の】時は自殺に至るといふ。

選択理由： A ・ B ・ C ・ D ・ E

8、根本崇市長は改めて政府の「三位一体改革」を批判し、自治体の将来の財政運営について最悪【な／の】事態を想定して対応策を講じていきたい。

選択理由： A ・ B ・ C ・ D ・ E

9、「二人拝展」では障壁画の完成した部分の写真も展示し、独特【な／の】世界を垣間見ることができる。

選択理由： A ・ B ・ C ・ D ・ E

10、清水さんは「独特【な／の】甘い香りを一人でも多くの人に楽しんでもらいたい」と言う。

選択理由： A ・ B ・ C ・ D ・ E

● 「な」と「の」の使用や選択に関して、何かご意見がありましたらお教えください。

性別： 男 ・ 女

年齢： 10代 ・ 20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代以上

出身： _____ (都 ・ 道 ・ 府 ・ 県)

ご協力ありがとうございました。